

ゆうあい報 おだびたる



社会医療法人
祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室
責任者 織田 正道

Society 5.0にもむけた医療の実現 近未来における地域医療のフロントランナーをめざせ！

2018年がスタートしました。皆さんもそれぞれに夢と希望を抱き新年を迎えられたことと思います。

さて、昨年十一月になりましたが、規制改革推進会議「医療・介護ワーキング・グループ」におおつ「Society5.0に向けた医療の実現に向けて」のテーマで、当院が取り組む「遠隔診療」の話をする機会を得ました。

「Society 5.0とは、社会の進化を示しており、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すものです。第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿を「超スマート社会」として提唱しており、それはIoT(モノのインターネット)で全ての人とモノがつながれ、様々な知識や情報を共有し、その膨大な情報をAI(人工知能)を使い、必要な時に必要な情報が提供される未来像です。少子高齢化など国が抱える多くの課題を克服した近未来の社会といえます。

さて、このワーキング・グループで話した内容は、高齢化の進展が著しい当地域において、85



歳以上の救急搬送患者、新規入院患者、さらには退院後も通院困難になられる高齢者が急増している現状と、その対策として、安心して在宅に帰っていただけるように、IoT・AIを使った「遠隔診療」、「在宅見守りシステム」の構築に取り組んでいることを中心に説明しました。さらに、現在の「遠隔診療」の画像は高画質で、患者の表情や顔色を鮮明に見ることができ、転倒など在家中でアクシデントが起こった時のアラート機能も備えていることを補足説明し、月1〜2回の「訪問診療」に「遠隔診療」を併用することが在宅患者の安心と満足度の向上につながり、将来、必要不可欠なっていくことは間違いないことも付け加えました。

この4月の診療報酬改定でも、「遠隔診療」は評価の拡充が議論されていますので、通院困難な高齢者に希望を与えるものになると期待しています。

また、以上のことから、今年も退院直後の在宅支援チームであるMBC(メディカル・ベースキャンプ)の実績を積み上げ、それに基づいたアウトカムを公表し医療・介護関係者の理解を広めていくことが重要となります。社会の大きな変化をチャンスと捉え、これまでの少子高齢化と言う閉塞感を打破し、近未来の豊かな長寿社会に向けて、我々が地域医療のフロントランナーとしての果たすべき役割はさらに大きくなるものと思えます。

それでは、2018年グループ方針を示します。Aging in place 『住み慣れた地域で自分らしく最後まで』の実現をめざし、急性期医療から在宅まで、保健・予防・医療・介護の各分野が一体的に提供できる総合ヘルスケアシステムの構築を進めます。

●保健・予防分野
「いつまでも元気で活躍できるエイジレス社会を築くため、生活習慣病の予防・改善さらにロコモティブシンドロームの予防に継続的に取り組みます」
1. 人間ドック、専門ドック(脳・肺・乳腺ドック)、2次検診へ積極的な取り組み、受診者の1割アップを図る

●急性期医療
『急性期機能を充実し、効率的で、質の高い医療の提供を目指すと共に、退院後もケアの継続が図れるように地域の医療機関や介護サービスと連携して在宅医療を全面的にバックアップします』
1. 地域に選ばれる病院づくり
①急性期機能の充実
○新規入院患者300名以上の受入れ体制強化
○医師臨床研修協力型から基幹型へ指導体制の構築
○看護師「特定行為」指定研修施設としての充実(特定行為区分を増やす)
○救急患者受入れ体制の強化
○かかりつけ医との連携強化(紹介入院患者増)
○平均在院日数短縮化に向け入退院支援・調整を推進する
・DCU(Dementia Care Unit)の充実
②地域包括ケアシステムをバックアップ
・在宅患者の看取り体制構築を本格化
・在宅医療支援体制MBC(Medical Base Camp)のさらなる充実
・医療と介護情報の一元化・共有化
・他業種(OPTIM等)とのコラボレーションを本格化
③医療の質向上を目指して
・TQM(Total Quality Management)推進
2. スタッフに選ばれる職場づくり
①「働き方改革」を推進
・タスク・シフト等業務の効率化推進、時間外勤務の短縮、年次有給休暇取得、ワークライフバランス(多様な勤務形態)の更なる推進
②人事制度の刷新を図る

●介護・福祉分野
「いつまでも安心して在宅での暮らしができるように地域包括ケアシステムを全面的にバックアップします」
1. 地域包括ケアシステムの実現
①介護老人保健施設における在宅復帰・在宅療養支援機能の充実
○回転率10%以上、在宅復帰率50%以上、稼働率95%を維持する
・地域の医療機関との連携強化
・ショートステイの効率的運営
・アウトカム重視し、リハビリ機能の充実を図る
②訪問看護サービスは医療と一体化を推進
・在宅医療支援体制MBC(Medical Base Camp)の充実を図る
・レーションを進める
③各事業を機能的に連携する
・グループホーム新規開設と順調な運営(6月開設)
・認知症デイサービスの稼働率70%をめざす
・認知症デイサービス・小規模多機能・居宅系施設・老人保健施設の統括的連携
④人材採用・育成のための専属部門開設
・介護スタッフの能力向上に向けて、「認知症ケア」の教育研修の強化
・コミュニケーション能力の向上・笑顔と挨拶の徹底
・外国人介護スタッフの教育・育成の強化
2. スタッフに選ばれる職場づくり
①ワークライフバランス(多様な勤務形態)の更なる推進
②子育て支援・介護支援の充実
③業務の効率化を図り、時間外勤務の短縮、年次有給休暇取得を進める
④人事制度の刷新
3. セイフティーマネジメント(転倒転落防止、院内感染防止)の更なる向上
4. 「ゆうあい社会福祉事業団」の更なる充実

●介護・福祉分野
「いつまでも安心して在宅での暮らしができるように地域包括ケアシステムを全面的にバックアップします」
1. 地域包括ケアシステムの実現
①介護老人保健施設における在宅復帰・在宅療養支援機能の充実
○回転率10%以上、在宅復帰率50%以上、稼働率95%を維持する
・地域の医療機関との連携強化
・ショートステイの効率的運営
・アウトカム重視し、リハビリ機能の充実を図る
②訪問看護サービスは医療と一体化を推進
・在宅医療支援体制MBC(Medical Base Camp)の充実を図る
・レーションを進める
③各事業を機能的に連携する
・グループホーム新規開設と順調な運営(6月開設)
・認知症デイサービスの稼働率70%をめざす
・認知症デイサービス・小規模多機能・居宅系施設・老人保健施設の統括的連携
④人材採用・育成のための専属部門開設
・介護スタッフの能力向上に向けて、「認知症ケア」の教育研修の強化
・コミュニケーション能力の向上・笑顔と挨拶の徹底
・外国人介護スタッフの教育・育成の強化
2. スタッフに選ばれる職場づくり
①ワークライフバランス(多様な勤務形態)の更なる推進
②子育て支援・介護支援の充実
③業務の効率化を図り、時間外勤務の短縮、年次有給休暇取得を進める
④人事制度の刷新
3. セイフティーマネジメント(転倒転落防止、院内感染防止)の更なる向上
4. 「ゆうあい社会福祉事業団」の更なる充実

●介護・福祉分野
「いつまでも安心して在宅での暮らしができるように地域包括ケアシステムを全面的にバックアップします」
1. 地域包括ケアシステムの実現
①介護老人保健施設における在宅復帰・在宅療養支援機能の充実
○回転率10%以上、在宅復帰率50%以上、稼働率95%を維持する
・地域の医療機関との連携強化
・ショートステイの効率的運営
・アウトカム重視し、リハビリ機能の充実を図る
②訪問看護サービスは医療と一体化を推進
・在宅医療支援体制MBC(Medical Base Camp)の充実を図る
・レーションを進める
③各事業を機能的に連携する
・グループホーム新規開設と順調な運営(6月開設)
・認知症デイサービスの稼働率70%をめざす
・認知症デイサービス・小規模多機能・居宅系施設・老人保健施設の統括的連携
④人材採用・育成のための専属部門開設
・介護スタッフの能力向上に向けて、「認知症ケア」の教育研修の強化
・コミュニケーション能力の向上・笑顔と挨拶の徹底
・外国人介護スタッフの教育・育成の強化
2. スタッフに選ばれる職場づくり
①ワークライフバランス(多様な勤務形態)の更なる推進
②子育て支援・介護支援の充実
③業務の効率化を図り、時間外勤務の短縮、年次有給休暇取得を進める
④人事制度の刷新
3. セイフティーマネジメント(転倒転落防止、院内感染防止)の更なる向上
4. 「ゆうあい社会福祉事業団」の更なる充実

地域包括ケア研究会報告書

ゆうあいビレッジ施設長 千々岩 親幸

地域包括ケア研究会は厚生労働省の正式な研究会ではありませんが毎年報告書を出しており、地域包括ケアシステムの政策決定に重要な役割を果たしています。昨年の5月に新たな報告書が公表されたので、その報告書について検討してみたいと思います。

今回の報告書は6回目の報告書となりますが、その内容は項目だけ見てもこれまでと比べて毎年確実に変化(進化)していると思われまます。今回の重要項目は6項目あり、その内容は ①地域共生の実現 ②2040年に向けた地域包括ケアシステム ③「尊厳」と「自立支援」を守る予防 ④中重度者を地域で支える仕組み ⑤2040年に向けた事業者の姿 ⑥地域マネジメントです。①の地域共生については以前も述べた事がありますが、地域包括ケアシステムの上位概念として位置づけられているもので医療・福祉を含めた私たちの地域社会のあり方を示したものです。②ではこれまで目標の年が2025年であったものがさらに先延ばしされ2025年は目標年の最初の年となり、団塊の世代の死亡者数がピークとなる2040年が設定された上で、2040年に向けて求められる4つの取組を③④⑤⑥として示して

います。以下③④⑤について検討します。⑥については地域の自治体の取組についての制度的な内容が主なものでここでは割愛させていただきます。

③ この項目では介護予防の重要性が再度強調されていますが、以前と異なるところは「自立支援」に加えて「尊厳」という言葉が加えられ「自立支援は心身機能の改善のためだけではなく、高齢者の尊厳の保持のためにある」ことを明確にしたところです。また、介護予防の内容も「社会参加」の一次予防、「虚弱を遅らせる」二次予防、「重度化を遅らせる」三次予防に加えてゼロ次予防として「地域でつながる」ことが提示されました。

④ 今回の報告書では中重度者という言葉が多用され、中重度者が住む多様な住まい(自宅と自宅以外の住まい)に対して、どのような形で医療サービスを提供しているかが重要になると指摘しています。そのためには地域の行政に対しては在宅医療・介護連携の担当部署の早急な設置を求め、医療・介護の事業者に対しては多職種連携によるチームケアを推進させ、連携というつながり方をさらに強固なものとするために2040年までには「協調」または「統合」

を目指すことを求めています。

⑤は医療・介護を提供している法人に向けての提言です、ここでは従来のバラバラに提供されてきた在宅サービスの問題点を指摘し、今後は多職種連携による一体的なサービスの提供の必要性を強調しています。具体的な一体的サービスのの中核となるものが「小規模多機能型居宅介護」「看護小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」と位置づけています。

以上が今回の報告書の主な内容ですが、それらは現在祐愛会がすでに進めているものや目指しているものとさほど違いがない事が分かりただけだと思います。



看護師特定行為研修センター開講式

看護師長 山本 晶子

佐賀県初の看護師特定行為研修が平成29年10月2日、織田病院で開講いたしました。現在、開講式から3ヶ月が経過し、2科目の修了試験に受講生全員が合格し、来年9月の卒業に向けて勤務の傍ら日夜、勉学に励んでいる毎日です。

昨年10月の開講式は、佐賀県初第一号、九州で三番目の認定施設ということでも多くの来賓の方々に祝辞をいただきました。まず、開式の辞を特定行為研修センター長である伊山院長に述べて頂いた後、織田理事長には受講生に対し「地域医療を支えるパイオニアに」とのエールをいただきました。

その後、御来賓である九州厚生局健康福祉本部長 遠山明広様に2025年以降の超高齢社会に対する医療の中の特定行為の実践者の目指す方向性を丁寧に説明していただきました。その他、御来賓には同じく厚生局看護指導官 山下智美様、杵藤保健福祉事務所長 吉岡克己様、佐賀県庁健康福祉本部医務課技術監 南里玲子様、鹿島藤津地区医師会会長 中村秀三先生、佐賀県看護協協会長 内田素子様、御挨拶いただきました。また、佐賀県山口市、佐賀県医師会池田会長、鹿島市樋口市長より祝電も頂戴しました。

受講生の代表からは手術室主任 谷口繁樹君が「治し支える医療を担う私たち」として堂々と決意表明してくれました。後日、佐賀新聞に掲載されたのをご覧になった方もおられると思います。

受講生全員にはフィジカルアセスメントに使用する参考書も贈呈していただき、全員で記念写真を撮影し会は盛況に閉会しました。ともかく多くの方々の支えにより無事に開講できたことを研修指導者として嬉しく思っております。

受講生全員は志願して研修を受講していますが、医学分野中心の内容であるため臨床における医師の高度な判断と実践の壁を感じ始めていることと思います。しかし、研修終了後には看護の心に医学的知識が備わることにより、医師と看護師、コメディカルの橋渡し役になり、患者サービスに欠かせない存在になれると実感できるのではないかと思う次第です。



4階病棟 岩屋直子

平成29年10月2日、看護師特定行為研修の開講式を盛大に行っていたが、私達研修生5名は特定行為取得(術後疼痛関連)を目指し研修を開始しました。現在はeラーニングによる講義と集合研修(合計315時間)を行っています。さらに研修後には、各分野の修了試験(一科目100問)を受けています。机上での勉強以外では身体診察の習得に向けてお互いに診察練習を行い、またお互いが得た知識を共有するなどして日々頑張っています。実際研修を受けてみると今まで自分になかった知識が多く、難しいと感じることもあります。しかし、今まで理解できていなかったことを自分の知識として習得することで、勉強することの大切さや面白さを実感しています。



第40回 佐賀救急医学会 in 鹿島

院長 伊山明宏

平成29年9月2日、鹿島市生涯学習センターエイブルにて第40回佐賀救急医学会を開催しました。当日は天候にも恵まれ、多くの方に参加していただきました。学会のテーマは、「Aging in Place」です。この街で、地域を支える救急医療」としました。私たち祐愛会の基本方針のひとつである「Aging in place」をそのまま学会テーマとして、その中における救急医療について皆で考える学会にしたいと考えました。たくさんさんの施設から、口演10題、示説11題を発表していただきました。シンポジウムは「高齢者の救急医療」というテーマで、消防、救急認定看護師、二次救急病院、三次救急病院の各立場からお話しいただいた後、連携の重要性などについて討議していただきました。特別講演は、佐賀大学医学部附属病院長山下秀一先生に「佐賀大学医学部附属病院総合診療部の高齢者救急とのかかわり」という演題でご発表いただきました。

また、今回は新しい試みとして杵藤地区広域消防救急救命士のみなさんによる「高齢者急変時のファーストエイド勉強会」を同時開催しました。地域の介

護施設職員90名、一般市民20名の参加があり、地域の皆さんに高齢者急変時の緊急対応について学んでいただくよい機会とすることができました。口演・示説・シンポジウムは医療関係者のみの参加としましたが、特別講演と「高齢者急変時のファーストエイド勉強会」は、事前申し込み不要、一般参加無料として、新聞でも広報し、広く地域の方に参加していただける学会としました。

2年前に多職種からなるプロジェクトチームを作り、学会開催準備を開始しました。第38回嬉野医療センター及び第39回佐賀大学開催時の学会視察に始まり、テーマの選定、ポスターデザイン公募、演題募集、プログラム作成、会場設営、受付進行など各担当チームが中心となつて自律的に用意周到な準備をしてくれました。おかげで、学会当日はほとんどトラブルも無く、開催担当病院としての役割を果たすことができました。また地域の救急対応力向上にも少しは貢献できたのではないかと思います。

私たちの組織は、何か取り組むべき課題が現れると、皆が自律的に持てる力を結集し、全て

乗り越えてきました。今回の学会も、イベント会社に依頼することも無く、全てを職員の力だけで行いました。祐愛会の結束力、集中力、瞬発力は、どこにも負けないということを再確認できた学会となりました。学会準備・運営を担当してくれたプロジェクトチームの皆さん、当日学会に参加してくれた皆さん、みんなのおかげで、学会長の大役を何とか果たすことができました。皆さんに感謝します。どうもありがとうございます。



第1回 祐愛会 未来創造会議

Nextリーダー研修会を開催して

人事課長 宮崎 公志



平成29年7月29日・30日の2日間、武雄温泉ハイツにて「第1回祐愛会未来創造会議 Nextリーダー研修会」を開催しました。

このような宿泊研修会は、平成18年に主任を対象にしたものが開催されました。自分もその受講者の一人で、今でも記憶に残っており、大変刺激になったことを覚えております。今回は「Nextリーダー」を対象に織田病院16名、ゆうあいビル14名の計30名が研修会に参加しました。また、副施設長・看護部長・事務部長・師長・課長にはタスクフォースとして参加していただきました。

研修会では、初めに伊山院長から祐愛会未来創造会議の目的とリーダーに期待することなど話していただきました。組織の目的やリーダーシップなどを理解できたのではないのでしょうか。次に問題解決法の1つ

である「KJ法」によるグループワークを行いました。テーマはいろんな意見が出し易いように「職場の活性化」としました。1日目は問題点課題の抽出を行いました。初めてKJ法を行う者もあり、また、普段顔を合わせない職員とのグループワークということもあり、予定時間どおりにまとまらず、夜遅くまで話し合っているグループもありました。夕食では少しお酒も入り、日頃接する機会がない部署の人や、病院スタッフと介護スタッフが情報交換を行ういい機会になったようです。

2日目は、問題点・課題の発表からスタートです。6グループから発表をしてもらいました。その後、問題点・課題に対する対策をグループワークし、まとめた発表です。グループそれぞれ違う視点で、理想のリーダー像やコミュニケーションの重要性、業務改善など具体的な内容の発表でした。他のグループやタスクフォースから質問や助言もあり活発な議論が飛び交っていました。最後に伊山院長から総評があり、2日間の研修会は無事終了しました。



や新人教育の見直し、職員のやりがいを見出すなど、短い期間ではありますがそれぞれが考え行動に移すことができていました。

研修終了後のアンケートでは「他部署でも同じ悩みを抱えており情報共有ができた」、「自分が動いていけないといけない」と意欲が高まったなど前向きな意見が多くこの研修会がいきつかけとなったものと思います。今後、参加者が各部署や法人のリーダーとして活躍してくれることを期待したいと思います。

デクビタス委員会では、平成29年10月20日に市民公開講座を開催し、近隣施設より、医師、看護師、コメディカル、一般市民あわせて160名参加していただきました。講演は、平川医師より褥瘡の治療、栄養管理、福地理学療法士よりポジシヨニング、野田よりスキンケアについてそれぞれの専門分野を活かした内容でした。

超高齢社会に直面する私たちにとっては、褥瘡予防は特別なことではなく、対象となるすべての人に適切な予防ケアを行うっていかなくてはなりません。地域包括ケアが進む中、療養の場は病院や施設だけでなく在宅に移行してきており、あらゆる場で予防ケアが必要となってきました。今回、少数ではありますが

市民公開講座「多職種から学ぶ褥瘡サポート」

看護部 野田 由香里



が一般市民の方の参加もあり、褥瘡予防が認知されだしたと感じました。患者や利用者が在宅ケアへ移行する際に、医療従事者が適切なケアを実施、指導すること療養生活に対する不安・負担の軽減となり、Aging Place「住みなれた地域で自分らしく最後まで」に繋がります。地域の基幹病院として、今後も啓発活動を行っていききたいと思っております。

「ゆうあい公開セミナー 地域嚥下サポート勉強会」

言語聴覚士 平田美帆・松枝知香

平成29年11月17日に「認知症の摂食嚥下障害について」をテーマに、地域嚥下サポート勉強会を鹿島市エイブルにて開催しました。内容は耳鼻科岡医師から「嚥下障害の基礎」、松枝言語聴覚士から「認知症患者の摂食嚥下障害」について講演を行っていただきました。第4回目の開催となる今回は、地域の病院や施設の看護師、介護士など計172名の方にご参加いただきました。アンケートの結果は、90%以上の方から「内容が理解できた」、「今後に役立てる」と回答して頂きました。また参加者からの要望として「口腔内への溜め込みに対する対処法を知りたい」「口が上手く開かずに口角から食事がこぼれてしまう方への対応を教えてください」など現場ならではの意見も頂きました。これらの意見は次年度以降のテーマの参考にさせていただきます。また、徘徊される患者様や利用者様への対応方法について、痰の吸引方法、施設での看取りについてなど、摂食嚥下障害以外の内容の要望もたくさん頂きました。これらの意見も今後の参考にさせていただきます。今後とも

地域嚥下サポート勉強会を開催し、退院後も継続したケアが行えるよう、地域の方々が必要とされる情報発信を行っていきたいと思います。



「糖尿病市民公開講座を開催」

看護師 河本健太郎

11月14日の世界糖尿病デーにちなんで、当院糖尿病委員会でも11月17日に「糖尿病市民公開講座」を開催いたしました。参加者は糖尿病治療中の方から、予防を目的としている方など様々です。

まず受付にて血圧測定や体重測定、血糖測定を行い、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士からの講義。そして、昼食、ウォーキングを行いました。各職種の専門性を生かした講義や実演を行い、参加者もメモを取り真剣に取り組まれていました。

ウォーキングでは天気が心配されましたが、参加者の皆さんの熱意により雨雲を払いのけることができ、少し肌寒くはありましたが、歩くスピードとができました。歩くスピードは様々ですが、自分のスピードを保ち歩行されゴールに着いた時には皆さん晴れやかな笑顔が見えました。

参加者からは「食事と運動に気をつけます。」「今回の献立を参考に家でも努力します。」「ウォーキングを続けていこうと思います。」等、前向きな意見も多く聞かれました。

今後糖尿病委員会では、料理教室や運動教室、また公開講座などを通して現在糖尿病について悩んでいる人や予防を心がけている人達の役に立てるような取組み、啓発活動を続けていきたいと思っております。



新任 Dr 紹介



(一般・乳腺外科) 中村 淳

平成29年10月から着任しました外科の中村淳です。

平成13年に当時の佐賀医科大学を卒業し、佐賀大病院、佐賀県立病院、織田病院で勤務したのち平成16年6月〜平成29年9月までは佐賀大学の一般・消化器外科で勤務していました。

着任してまだ4ヶ月足らずですが、当院には3年目の時に1年間お世話になり鹿島で生活していましたが、当時と変わらない鹿島の街並みを散策しながら大変懐かしさを感じております。(早速、当時の行きつけの居酒屋で鹿島の美味しい地酒をいただきました。)また、昔からの職員の方々も数多く残っておられ声を掛けてくださるので、非常に心強く働きやすい環境に改めて感謝しています。

大病院では、平成25年から約5年間乳腺外科のチーフを務め、一次乳房再建率の向上や乳腺内視鏡手術の導入などに携わってききましたので、乳腺外科を中心に一般外科領域で鹿島・西部地区の地域医療に貢献し、皆様と一緒に織田病院を盛り上げていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。



(一般・消化器外科) 田中 太

2017年10月1日より佐賀大学一般・消化器外科医局から赴任となりました。田中太と申します。

自分は高校まで新潟県に在住していましたが、大学より佐賀にお世話になっております。医学という専門分野を6年間、多額の税金を使って教育していただき、自分の身体と医療活動で報いられたいです。医師としての日は浅く、修練と自己研鑽を要する毎日です。お役に立てることはまだまだ少ないですが、出身地の関係から日本酒に関する強みがあります。そちらの自己研鑽も怠らないように邁進して参りましたので、ご用入りの際にはご一報いただければと存じます。これから、なにとぞよろしくお願ひいたします。

新成人おめでとう

ケアコートゆうあい 4名



村上佑香 (グループホーム)

①成人を迎えた感想は、実感は正直あまりありませんが、大人として責任をもった行動をしなければならぬと思えました。成人となり、いろんなことに挑戦できる事が楽しみです。

②成人をしようとしてみたいことは、だいたい好きな人たちとたくさん思い出を作れるように、貯金し、旅行に行きたいです。一眼レフで、インスタ映えするような写真を撮れるようになりたいです。③自己PR/どんな時も笑顔でいれることです。楽しい事があると自然と笑顔になると思いますが、辛い時こそ少しでも笑顔になるように心がけています。



佐藤美実子 (2階療養棟)

①まだまだ実感が湧きませんが、成人の自覚をもつて後悔しないよう毎日楽しく過ごしたいです。②海外にいきたくて、お酒をたくさん飲めるよう訓練します。③どんなときも向上心を持って、ポジティブにいきます!



堤 彩夏 (小規模サテライト)

①実感がまだ湧きませんが、社会人としての自覚を改め今後の生活を送りたいと思います。②旅に出たいと思っております。行った事のない土地で

しか学べないことを吸収したいです。③私は、優しさを大事にしています。自分には厳しく、ふれあう人には優しく接し、その人ならではの個性を見つめるようにしています。



中山亜耶 (1階療養棟)

①実感はないですが、大人の仲間入りをするので自分の行動に責任を持ち、社会人という自覚をもって生活できるようにこれからもっと頑張りたいです。②お酒を飲めるようになりたいです。そしてお金を貯め、たくさん旅行に行ってみたくです。③笑顔を絶やさずに、これからも今まで以上に仕事を頑張りたいです。毎日を通して行きたいです。

織田病院 6名



江口瑠華 (3F)

①今までとは違うもっと大人な人間になっていきたい。②沢山ありすぎるので(笑)しいて言うなら、旅をしてみたいです!③つものにとらわれず、広い視野を持つて何事にも精一杯取り組んでいきたいと思ひます!



坂本 麻菜 (3F)

①自分の行動に責任を持つてやって行きたいと思ひます。②潰れるくらいまでお酒を呑んでみたいですね(笑)③何事も一生懸命頑張ります!



吉富美季 (3F)

①旧友との再会によつて旧友のがんばりを聞いて、自分も

もっと頑張らなければならぬ事を感じました。②世界一周してみたいです(笑)③看護師になるためにも、今の前の准看護師試験に向けて頑張っています!



北島明日香 (4F)

①嬉しいですが、これまで以上に成人としてのけじめを持ち、責任ある行動をとりたいと思ひます。②さまざまなことにチャレンジし、経験していきたいと思ひます。③持ち前の明るさと元気で、仕事とプライベートの両立をして行きたいと思ひます。



小柳奈央 (4F)

①支えてくれる周りの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。これから成人としての自覚をもつた立派な大人になりたいです。②資格を取得し、いろんなことにチャレンジしていきたいです。③不安なこともたくさんありますが、何事にも一生懸命取り組んでいきたいです。これからもよろしくお願ひ致します。



中島優希 (4F)

①これまで育ててくれた母・支えてくださった周りの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもよろしくお願ひします。②今しかできないたくさんの方に挑戦していきたいです。③准看護師試験に向けての勉強や仕事を今まで以上に頑張ります。これからもよろしくお願ひします。

平成29年度祐愛会QC発表会・忘年会

看護部外来師長 市丸徳美



平成29年12月9日(土)に、「第22回ゆうあい研究発表会」が佐賀県嬉野市の大正屋において開催されました。今回のテーマは『業務効率化』であり、病院およびゆうあいビレッジの各部署や委員会を取り組まれた成果を発表して頂きました。その中から、優秀賞として、

- ・「心臓CTの効率化」(織田病院放射線科)・サークル名「Heartful Radiation House」
- ・「注射薬ダブルチェック廃止による時間短縮」(織田病院3階病棟)・サークル名「NSAAA」

- ・「乳がん自己検診のススメ」(織田病院健康管理センター)・サークル名「ピンクリボン」
- ・「音楽のある豊かな暮らしを目指して」(ゆうあいビレッジ機能訓練室)・特定施設協力チーム・サークル名「音楽たのしもう隊」
- ・「円滑な情報の共有で安全な送迎を」ゆうあい通所リハビリはつらつ・いきいき・サークル名「送&迎」
- ・「入浴とリハビリ時間の短縮」(ゆうあい1階療養棟)・機能訓練室・サークル名「R-withB」



以上の6チームが選出されました。今回は、自部署のみでなく、関連部署との協力による取り組みが発表され、「協働」や「創意工夫」がより良い成果をもたらすことが印象に残る発表会でした。

全ての発表終了後、織田理事長により、「時代は変わる パラダイムシフトを図れ」というテーマで特別講演が行われました。日本の人口は、明治維新の頃は3千3百万人だったのが戦後7千万人となったこと、さらに100歳以上の人口は前回の東京オリンピックが開催された1964年には190人だったのが現在では6万人超、さらには2050年には50万人を超える予

ゆうあい防災訓練

防災委員会委員長 一ノ瀬 隆

平成29年11月29日(水)ケアコートゆうあいにて総合防災訓練を行いました。

万が一の時に備えて、防災意識を高めるために各事業所ごとに年2回の防災訓練(避難誘導訓練)を行っています。

ケアコートゆうあい療養棟には、1階40名、2階40名、合計80名の利用者様がいらっしゃいます。夜間に火災が発生した場合、職員だけで短時間に避難させることは困難であり、地域の方の協力が必要不可欠です。

そこで、今回は、1階20名、2階20名の合計40名の模擬利用者を設定し、夜間の火災発生を想定して、日没後、ゆうあいビレッジ・織田病院職員と鹿島市消防団(鹿島・能古見分団)40名、鹿島消防署4名、地域住民の方々との協力を得て、総勢195名での訓練を実施しました。

災害対策本部と現場との間では、トランシーバーを使用して、避難状況などを的確に情報を伝える訓練、救護所では、看護師による酸素吸入・吸引の準備及び実施、医師による負傷者のトリアージと重症者の病院への搬送など、各職員にそれぞれ役割分担を設定して真剣に取り組みました。



訓練終了後に鹿島消防署長様、鹿島市消防団長様より、「外部の協力者(消防署・消防団・地域住民)には、適切な指示を出すようにして下さい。指示がなければ動く事ができず、混乱することになります。搬送方法や搬送時の注意点を再確認して下さい。施設は、耐火構造になっており、炎より煙に巻き込まれるのが一番怖いので注意してください。」などのアドバイスをいただきました。

全国的に火災・大雨による水害・土砂災害・地震など想定外の災害が発生しています。今回の経験を活かし、イザという時に的確な行動、情報伝達が出来るよう、又、防災意識の向上のために今後も訓練を重ねていきます。近隣地域の方のご協力を今後共よろしくお願ひ致します。

ハワイ研修に参加して

4階病棟看護師 行武 涼子

10月29日～11月3日の4泊6日
で全日病ハワイ研修に参加させて
もらいました。

初海外・初ハワイ、そして苦手
な飛行機ということもあり、現地
に到着するまではドキドキでした
が、現地に到着してみるとハワイ
ならではの温暖な気候や景観、ホ
テルから一望できるワイキキのと
ても綺麗な海に一気に魅了させら
れました。

初日は全日病研修で参加されて
いた方々との懇親会に参加し、お
いしい食事を頂いたり、ステージ
と一緒にフラダンスを踊ったり楽
しむ事が出来ました。2日目は研
修日で午前にはナスプラクティ
シヨナーについてとアメリカの医
療制度について講義を受けまし
た。日本でようやく始まろうとし
ている特定行為がアメリカではす
でに導入されており、看護師の地
位の高さを知ることができ、看護
師という仕事に改めて誇りを持つ
ことが出来たように思います。午
後からは全日病研修で初めてとな
るクイーンズメデイカルセンター
へ見学に行くことができ、施設内
の設備や患者様の療養環境、そ
してスタッフが働きやすい環境
と、日本とアメリカの医療の違い
を感じることが出来ました。3日

目はオプショナルツアーでマウイ
島観光を行い豊かな自然を満喫出
来ました。夜にはハロウィンパー
ティーに遭遇し、様々な衣装を見
ることができました。日本でもメ
ジャーになったハロウィンだけ
あって、仮装した日本人の多さに
も驚きました。4日目はアラモア
ナシヨップングセンターで買い物
し、昼食にパンケーキを堪能。夕
食はクルージングをしながらまた
また美味しい食事を堪能したり
と、楽しいことがぎゅっと詰まっ
た4日間でした。

初めてのハワイを不安
なく過ごせたのも、織田
理事長、洋子先生からの
たくさんのお心遣いを戴
いたおかげだと思いま
す。本当にありがとうございます。
ございました。

そして研修に参加され
たメンバーの皆様にも楽
しい思い出を一緒に作っ
ていただき感謝していま
す。この研修での学びや
思い出を活力としてこれ
からの仕事も頑張ってい
きたいと思えます。



愛野由美子クリスマス ピアノコンサート&ゆうあい聖歌隊

ゆうあい事務 測上 敏文

平成29年12月22日(金) 午後7
時より、ケアコートゆうあいホー
ルにて、鹿島市出身のピアノニスト、
愛野由美子様をお迎えして「愛野
由美子クリスマスピアノコンサート
&ゆうあい聖歌隊」を開催いた
しました。

日頃よりお世話になっている地
域の方々や利用者様家族にも癒し
のひとときをお届けしたいと思
い、多く方にお知らせをしたこと

ろ、約200名の方にご来場いた
できました。

第1部が愛野様のピアノコン
サート、第2部は「ゆうあい聖歌
隊」による合唱の2部構成で行わ
れ、第1部のピアノコンサートで
は、シヨパン作曲の組曲パピヨン
をはじめ、山下達郎のクリスマス
イブやクリスマスソングメドレー
といったクラシックなじみのな
い方でも楽しめるプログラムで演
奏いただき、最後の曲を弾き終え
ると大きな拍手に包まれました。

つづく第2部の聖歌隊の合唱で
は、総勢45名の歌声がホール内に
響き渡りました。その歌声はゆら
めくキャンドルに彩られたホール
やライトアップされたガーデンテ
ラスと融合し幻想的な空間を作り
出していました。そして、最後の
愛野様と坂口様を交えたハレルヤ
の合唱には、会場から惜しみない
拍手が送られました。

プログラム終了後は聖歌隊にて
お客様をお見送りしてコンサート
の幕を閉じました。

愛野様をはじめ、ゆうあい聖歌
隊の皆さん、美しい音色や歌声を
披露していただきありがとうございます
でした。また、運営をお手伝い



頂いた皆さん、そしてご来場頂い
た皆様、本当にありがとうございます
でした。

学会(研究会)・講演(講義)・論文発表(平成29年)

【学会(研究会)発表】

- ・第14回日本病院総合診療医学会学術総会(3月3日 岡山大学鹿田キャンパス)
大石透、藤原元輔、山口賢太、織田良正、古川尚子、多胡雅毅、山下秀一
「寝たきり度Aの患者の転倒転落には男性、緊急入院、眠剤使用、転倒転落の既往、認知度が関連する」
- ・日本皮膚科学会第380回福岡地方会(3月5日 ホテルニューオータニ博多)
小川始主夏、永瀬浩太郎、朝長絵里子、井上卓也、成澤寛
「治療後に症状が再燃した外陰部壊死性筋膜炎の1例」
- ・2017 Society of General Internal Medicine Annual Meetings(4月23日 米国ワシントン)
Motoshi Fujiwara, Yoshinori Tokushima, Naoko Furukawa, Masaki Tago, Yoshiaki Nakahara, Shu-ichi Yamashita
「Recurrent Pneumocystis pneumonia can develop in a human T-cell lymphotropic virus type-1(HTLV-1) carrier」
- ・第39回総合診療ケースカンファレンス(5月17日 マリトピア)
大石透「特発性器質化肺炎の二例」
- ・第18回九州ブロック介護老人保健施設大会in長崎(6月2日 タワーシティ会議室3)
山口真二「「ときどき入所」型老健を目指して」～在宅復帰強化型老健の取り組みより～
山下のぞみ「はじめての生活行為向上マネジメント」～母ちゃんの頑張り日記「息子に迷惑はかけられんばい」～
- ・第53回日本肝臓学会総会(6月8～9日 広島国際会議場)
河口康典、吉岡航、野下祥太郎、高橋宏和、江口有一郎、尾崎岩太、岡田倫明、柳田公彦、小平俊一、井手康史、安武努、川副広明、水田俊彦
「DAA治療によるHCV排除後の肝発癌抑制効果および尾案発癌危険因子の検討」
- ・平成29年度佐賀県医療ソーシャルワーカー協会総会研修会「皆の仕事を理解しよう」
(6月17日 国立病院機構佐賀病院4階研修ホール)
原和行「地域包括ケア病床におけるMSWの役割」
- ・第2回佐賀県市民公開講座(7月1日 鹿島市生涯学習センターエイブル)
小宗静男「もっと聞こえるようになろう」
- ・第30回日本疼痛漢方研究会学術集会(7月1日 東京コンファレンスセンター品川)
中平圭「線維筋痛症に対する漢方治療で冬季と夏季で使い分けて処方した症例」
- ・第19回日本医療マネジメント学会学術総会(7月7～8日 仙台国際センター)
織田良正、多胡雅毅、古川尚子、織田正道、山下秀一
「人間ドックでCEA、CA19-9上昇を認めた患者の実態と経過に関する検討」
織田良正、神代修、小森ヒロ子、古川尚子、多胡雅毅、山下秀一
「退院直後の訪問サービス利用前後での患者、患者家族の意識の変化」
中村典弘、市丸徳美、伊山明宏
「DCU(Dementia Care Unit)創設と認知症ケアサポートシステムの開発」
- ・第3回地域包括ケア病棟研究大会(7月9日 東京コンベンションホール)
織田正道「シンポジスト 地域包括ケア病棟の質を考える」
原和行「退院支援における地域包括ケア病床の有効活用の取り組み」
- ・日本ペインクリニック学会題51回大会(7月21日 長良川国際会議場、岐阜都ホテル)
中平圭「局所麻酔薬は臨床で使用される高濃度でヒト内向き整流性K⁺チャネルKir2.xを異なる様式で抑制する」
- ・第17回佐賀県臨床皮膚科医会(7月29日 ホテルニューオータニ佐賀)
織田洋子、小川始主夏「忘れた頃にやってくる疥癬」
- ・第40回佐賀救急医学会(9月2日 鹿島市生涯学習センターエイブル)
織田良正「高齢者の救急医療に向き合う ～二次救急病院としての役割を再考する～」
大石透、藤原元嗣、香月尚子、多胡雅毅、西山雅則、山下秀一
「祐愛会織田病院における高齢者救急の実態調査」
眞木恭子、副島りつ子、吉村かおり、河本健太郎、市丸徳美
「外来における在宅支援にむけて～退院時指導を活かした外来継続看護の実施～」
中村典弘、市丸徳美、伊山明宏
「認知症合併高齢者に対する我々のチャレンジ～DCU(Dementia Care Unit)創設～」
- ・第59回全日本病院協会in石川(9月9～10日 石川県立音楽堂他)
織田良正「退院直後の訪問診療・訪問看護によりみられる患者、患者家族の意識の変化」
山口賢太、下田尚子、市丸徳美、辻田幸子、伊山明宏
「転倒転落防止におけるDCU開設の効果」
山口賢太、古川尚子、多胡雅毅、山下秀一、伊山明宏、織田正道
「寝たきり度Aの患者の転倒転落には男性、緊急入院、眠剤使用、転倒の既往、認知度が関連する」
井手綾子、川原佳、宮崎圭介、小野原彩夏、緒方良彦
「より多くの患者により質の高いお薬手帳を」
中村典弘、神代修、辻田幸子、重松かおり、田中寛子、竹本真奈美、宮崎公志、伊山明宏
「地域包括ケア病床有効活用への取り組み」
- ・第19回日本認知症グループホーム大会in京都(9月9日 国立京都国際会館)
北川英俊「グループホーム同士で助け合おう」～近隣のグループホームとの交流会を開催し
- ・第15回日本病院総合診療医学会学術総会(9月14日 ディズニーアンバサダーホテル)
山口りか、藤原元嗣、大石透、香月尚子、西山雅則、大串昭彦、多胡雅毅、山下秀一、福田いずみ「IGF(insulin-like Growth Factor)-II産生腫瘍による低血糖で意識障害を起こした高齢男性」
- ・WORLD CONGRESS of GASTROENTEROLOGY at ACG2017 in Orland(10月17日 Orange County Convention Center)
Eri Takeshita, MD, Yasuhisa Sakata, MD, PhD, Sanae Kawamura, MD, Takuya Matsunaga, MD, Nanae Tsuruoka, MD, PhD, Koichi Miyahara, PhD, Naoyuki Tominaga, PhD, Keiji Matsunaga, PhD, Ryo Shimoda,

MD, PhD, Ryuichi Iwakiri, AP, Motoyasu Kusano, DM, PhD, Kuzuma Fujimoto, MD, PhD

「Frequent Upper Gastrointestinal Symptoms in Japanese Females Compared to Males Did Not Depend on Endoscopic Esophagitis」

- ・第40回総合診療ケースカンファレンス(11月15日 マリトピア)
藤原元嗣「精神疾患を有する糖尿病患者について、介入に苦労した一例」
- ・医療マネジメント学会第16回九州・山口連合大会(12月1～2日 別府国際コンベンションセンター)
市丸徳美、中村典弘、伊山明宏「Demetia Care Unit(DCU)開設1年後の評価」
吉原沙紀、竹本真奈美、重松かおり「事例を通して、退院支援の効果と課題について考える」

【講演・講義】

- ・開成デイサービスセンター職員研修(1月6日)石井大輔「通所介護計画の実践について」
- ・佐賀大学看護学科講義(1月13日)市丸徳美「老年看護—介護老人保健施設における看護師の役割」
- ・福岡県私設病院協会研修会(1月19日)重松かおり「退院支援」
- ・ゆうあい公開セミナー24時間定期巡回・随時対応サービス開設記念講演会(1月21日 鹿島市生涯学習センターエイブル)
織田正道「豊かな長寿社会に向けた取り組み」
- ・日経BP公開座談会「地域包括ケア時代のあるべき心不全治療」(1月27日 品川インターシティーホール)
織田良正「高齢化とどう向き合うか ～織田病院の挑戦：MBC(Medical Base Camp)～」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(2月13・20・27日)
神代修「社会保障 社会福祉のしくみ」
- ・介護老人保健施設たんぼ職員研修(2月22日)石井大輔「看護・介護記録の書き方」
- ・独立行政法人福祉医療機構 医療施設整備・機能強化セミナー(2月24日 全社協・灘尾ホール)
織田正道 「『治す医療』から『治し支える医療』への転換
～85歳以上人口の急増により地域医療が大きく変わる～」
- ・ゆうあい公開講座 地域嚙下サポート勉強会(2月24日)中根知子「摂食嚙下機能と口腔ケアについて」
- ・佐賀県委託事業 生活支援サポーター養成研修(2月24日、3月7日 グランデはがくれ)
石井大輔「生活支援Ⅰ(基礎知識)」
- ・鹿島看護学校卒業記念講演(2月28日)
市丸徳美「看護実践を通して伝えたいこと～認知症看護認定看護師の立場から～」
- ・白杵市中心不全病診連携会(3月1日 大分県白杵市コスモス病院内)
織田良正「治す医療」から「治し支える」医療への転換
- ・認知症サポーター養成講座(3月9日、4月7日 織田病院)
石井大輔 光武耕治「認知症を理解し地域で支えよう!!!」
- ・第31回鹿島市みんなの集い(3月12日 鹿島市民会館)
織田良正「いきいき楽しく生活するために ～予防医療と心の健康～」
- ・佐賀県委託事業 生活支援サポーター養成研修(3月14日 グランデはがくれ)

石井大輔「生活支援Ⅱ(演習)」

- ・第1回佐賀難聴・めまい懇話会(4月12日)
小宗静男「アブミ骨固着症について」
- ・ケアポートしらたき職員研修会(4月21日)市丸徳美「認知症ケア」
- ・佐賀大学医学部麻酔・蘇生学教室開港36周年記念会・第27回佐賀大学医学部麻酔・蘇生学教室同門会総会学位取得講演(4月22日)
中平圭「Clinical concentrations of local anesthetics bupivacaine and lidocaine differentially inhibit human Kir2.x inward rectifier K⁺ channels.」
- ・第13回佐賀県診療情報管理懇話会(4月22日 佐賀大学医学部附属病院 臨床大講堂)
織田良正「治す医療」から「治し支える医療」への転換
- ・短期専門コース(5月12日 アバンセ)石井大輔「看護・介護記録の書き方」
- ・佐賀県看護協会研修会(5月17日)市丸徳美「認知症患者の看護」
- ・心不全病診連携セミナー(5月18日 健和会大手町病院)
織田良正「超高齢心不全患者をいかに診るか ～地域急性期病院を全うするために～」
- ・佐賀県看護協会新人看護職員多施設合同フォローアップ研修(5月24日)
市丸徳美「認知症看護の実際」
- ・佐賀県介護支援専門員研修専門課程Ⅰ(6月5日)市丸徳美「認知症に関する事例」
- ・佐賀県MDSフォーラム(6月9日 ホテルマリターレ創世)
出勝「当院におけるアザシチジンの投与経験」
- ・佐賀県看護協会研修会(6月13日)市丸徳美「認知症高齢者の看護実践に必要な知識」
- ・佐賀県立総合看護学院(6月22日)西山雅則「地域医療と高齢者保健指導」
- ・大分県病院協会 定時社員総会特別講演会(6月24日 レンブラントホテル大分)
織田正道「地域医療構想と医療計画」
- ・第一三共講演会(6月27日)市丸徳美「認知症ケア加算取得に向けた取り組み」
- ・平成28年度介護労働講習(介護実務者研修)(6月30日、7月10・18日、8月4日 サンティール)
石井大輔「実践講習：生活支援①・②・④・⑤」
- ・市民公開講座(7月1日)中根知子「補聴器の正しい使い方」
- ・日本医業経営コンサルト協会福岡県支部継続研修講演会(7月6日 福岡天神ビル)
織田正道「超高齢社会における民間病院の役割」
- ・第一三共Web講演会(7月12日)市丸徳美「認知症ケア加算取得に向けた取り組み」
- ・佐賀県介護福祉士会支部研修(7月12日 橘公民館)
石井大輔「介護過程：アセスメントの書き方、考え方」
- ・介護補助講習会「介護補助パソコン講習」(7月20日 鹿島市民会館)
石井大輔「利用者のこころを支える、利用者を理解し信頼を形成する、介護技術の基本」
- ・杵藤広域部症例検討会(7月29日)
野中あゆみ「非代償性肝硬変患者のリハビリテーション」
- ・嬉野漢方の集い第439回講演(8月3日)中平圭「ペイン領域の漢方治療」
- ・長崎みなとメディカルセンター職員研修会(8月7日)
市丸徳美「認知症ケア加算の理解とケアの実践」

【論文】

- ・平成28年度介護労働講習(介護実務者研修)(8月23日 西九州短期大学)
石井大輔「生活支援技術Ⅱ」
- ・第47回鹿島市老人クラブ大会(8月24日 鹿島市民会館ホール)
織田良正「みんなで築こう!健康長寿社会!」
- ・総合診療医のための心不全学術講演会(9月6日 マリトピア)
織田良正「当院でのトルバプタン使用経験からの考察」
- ・佐賀県看護協会(8月27~28日、9月8日)市丸徳美「看護職員認知症対応力向上研修」
- ・佐賀県介護福祉士会支部研修(9月13日 橘公民館)
石井大輔「介護過程:介護計画書の書き方、考え方」
- ・嬉野医療センター附属看護学校講義(9月15・22日、10月6・25日)
市丸徳美「老年看護(高齢者施設における看護、認知症看護)」
- ・嬉野医療センター職員研修会(9月29日)市丸徳美「認知症ケアについて」
- ・市民公開講座(9月29日)本村拓郎「ロコモ運動教室」
- ・佐賀大学大学院看護学科講義(10月3日)市丸徳美「老年看護学特論 認知症看護」
- ・介護補助講習会「介護補助パソコン講習」(10月5日 武雄市文化会館)
石井大輔「利用者のこころを支える、利用者を理解し信頼を形成する、介護技術の基本」
- ・第5回九州老年心血管病研究会(10月10日 グランドハイアット福岡)
織田良正「老年心不全をいかに診るか ~地域急性期病院を全うするために~」
- ・認知症サポーター養成講座(10月16日 執行分公民館)
石井大輔 光武耕治「認知症を理解し地域で支えよう!!!」
- ・第14回ゆうあい公開セミナー地域勉強会~多職種から学ぶ褥瘡ケア~(10月20日)
淵明子「褥瘡と栄養」
福地有沙「ポジショニングについて」
- ・高齢者スキルアップ・就職促進事業(介護初認者講習)(11月8日 日研学院)
石井大輔「自立にむけた介護・介護職の役割、専門性と他職種との連携」
- ・第2回佐賀難聴・めまい懇話会(11月15日)小宗静男「耳科手術の基本術式」
- ・ゆうあい公開セミナー 地域嚙下サポート勉強会(11月17日)
松枝知香「認知症と摂食嚙下障害」
- ・糖尿病公開講座(11月17日)本村拓郎「運動について」
- ・認知症対応型サービス事業管理者研修講義(11月21日)
北川英俊「適切なサービス提供のあり方についてⅡ」~地域等の連携~
- ・鹿島市・鹿島市教育委員会 盛年の集い(12月10日 鹿島市生涯学習センターエイブル)
織田正道 「エイジレス・ライフ」
- ・諸隈病院職員研修会(12月16日)市丸徳美「看護職員認知症対応力向上研修伝達講習」
- ・佐賀県女性医師懇談会(12月17日 マリトピア)
織田洋子「SAGA JOY NETWORK by BALLON PROJECT」
- ・佐賀県社会福祉会(12月19日)神代修「認知症介護従事者のキャリアアップ研修 介護過程」
- ・医療法人大誠会内田病院(12月20日)神代修「当院の取り組み 退院支援」
- ・織田正道「超高齢患者が急増しフラット型チームとICTで変革をとげた」
メディカ出版 医療と介護Next 1月号
- ・織田正道 特集 第7次医療計画-これまでと何が違うのか、病院への影響は?
地方都市の民間病院の立場から考える 第7次医療計画地域のニーズに合わせてソフトランディングする
医学書院 病院 第76巻 第7号
- ・佐賀新聞社 佐賀偉人伝 -佐賀の先人たちから未来への贈り物-
<共同執筆者>青木歳幸、鍵山稔明、織田正道他
- ・織田正道 特集 「地域志向型病院」のススメ
退院促進や在宅を重視、院内外の体制を見直し
日系BP社 日経ヘルスケア7月号
- ・織田正道 ちよっと拝見老健施設
あらゆるステージの要介護度に対応 “ゆうあいビレッジ”の基幹施設に
(全国老人保健施設協会機関紙) 老健 11月号
- ・織田正道 「好生館」180年間の時の流れと共に
好生館180年記念誌
- ・小宗静男:側頭骨含気理論に基づいた中耳コレステリン肉芽腫の新治療法
JOHNS Vol.33 No.11 2017
- ・Genki Ogata,Yuya Ishii,Kai Asai,Yamato Sano,Fumiaki Nin,Takamasa Yoshida,Taiga Higuchi,Seishiro Sawamura,Takeru Ota,Karin Hori,Kazuya Maeda,Shizuo Komune,Katsumi Doi,Madoka Takai,Ian Findlay,Hiroyuki Kusuhara,Yasuaki Einaga and Hiroshi Hibino: A microsensing system for the in vivo real-time detection of local drug kinetics
Reprinted from Nature Biomedical Engineering 1,pp.654-666,9 August 2017
- ・Mitsuo P.Sato,Taiga Higuchi,Fumiaki Nin,Genki Ogata,Seishiro Sawamura,Takamasa Yoshida,Takeru Ota,Karin Hori,ShizuoKomune,SatoruUetsuka,Samuel Choi,Masatsugu Masuda,Takahisa Watabe,Sho Kanzaki,Kaoru Ogawa,Hidenori Inohara,Shuichi Sakamoto,Hirohide Takebayashi,Katsumi Doi,Kenji F.Tanaka and Hiroshi Hibino: HEARING LOSS CONTROLLED BY OPTOGENETIC STIMULATION OF NONEXCITABLE NONGLIAL CELLS IN THE COCHLEA OF THE INNER EAR.
Frontiers in Molecular Neuroscience September 2017 Volume10 Article300
- ・谷口賢一郎,乗田浩明,織田良正,中原快明:心タンポナーデで発症した結核性心膜炎の一例.
総合診療27(2):268-271,2017
- ・織田良正,片山雄二,古賀秀剛,古賀清和:遅発性胸骨骨髄炎に起因した感染性仮性大動脈瘤の1例.日本心臓血管外科学会雑誌 46(5):260-263,2017
- ・永沢善三,松本浩一,大石浩隆:ビブリオ・バルニフィカス感染症-基礎:本菌の特徴・疫学・検査・対策-JVM(獣医畜産新報)70(4):246-250,2017
- ・市丸徳美「介護拒否がある~認知症の人の行動を問題行動ととらえず、意味のあるサインととらえる」
日経研季刊誌、認知症介護、2017春号、(P2~P11)
- ・下田尚子、市丸徳美、伊山明宏「DCU(ディメンティア・ケア・ユニット)における心理的介入の実践報告」
全日病院協議会雑誌 第28巻1号

平成29年 ゆうあい一座 公演実績

- ・しきなみ10周年記念 宅老所しきなみ (1月14日) にわか劇「昔話」
- ・にわかフェスティバル2017 佐賀市文化会館大ホール (1月15日) にわか劇
- ・市民公開講座定期巡回開設記念 エイブル (1月21日) にわか劇
- ・鳥栖三養基地区在宅ネットワーク みやき町コスモス館 (3月4日) にわか劇
- ・県内の医療事務に係る職員 佐賀大学 (4月22日) ICTを使ったMBC在宅支援
- ・JA年金友の会500人 太良町役場横ホール (6月24日) にわか劇「逢いたくて」天使
- ・JA年金友の会180人 白石JA会館 (7月3日) にわか劇「逢いたくて」天使
- ・鹿島市老人クラブ連合会 鹿島市民会館 (8月24日) にわか劇「詐欺」、デイサービス、体操
- ・みかん生産者の会 鹿島市市民会館 (9月5日) にわか劇「詐欺」、デイサービス、体操
- ・公民館集まり 中村公民館 (9月11日) にわか劇「詐欺」、デイサービス、体操
- ・鹿島市漁協組合年金友の会 鹿島市漁協組合浜営業所 (9月28日) にわか劇
- ・高齢者一人暮らしの方と支える方の集まり 大村方公民館 (10月24日) にわか劇
- ・鹿島市盛年の集い エイブル (12月10日) にわか劇「暇ほど毒なものはない」、体操



部活動報告 CLUB Report

陸上部

防災救命担当 部長 井上 出

2015年5月に活動を開始した陸上部は現在部員13名、院内外サポーター5名の計18名で活動しています。院外サポーターの中には箱根駅伝出場の青山学院大学・中央大学の駅伝競走部OBも2人居られ、貴重なアドバイスを受けながら活動しています。

部活動とはいえ個人の自主練習が主ですが、各人の競争力のチェックを兼ねて例会として毎週木曜日の夜に鹿島市陸上競技場で18時30分集合、本練習は19時から19時50分まで活動し、競技場の照明が落ちる20時に散会しています。忙しい仕事や家事等の合間を縫っての練習は大変ですが、短時間集中型で今年度も、第70回県民体育大会の女子走り高跳びで2位、40歳以上3000mで6位入賞と職場の仲間が好成績を収めています。また、競技としてだけでなく、走り幅跳びや砲丸投げなど、TV等でしか観たことのない種目に挑戦する体力測定も楽しく真剣に行っていますので、自分の身体能力を数値で知りたい方は木曜日の夜競技場を覗いてみてください。面白いですよ陸上競技!



40歳以上男子3000m 6位
(下村嘉憲さん：総務)



女子走り高跳び 2位
(大塚拓実さん：リハビリ)

編集後記

健康管理センター 牛島久美子

新年あけましておめでとうございます。2017年は皆様にとってもどのような一年でしたか？私は、法人全体が「パラダイムシフト」つまり「劇的な変化」を遂げている中にあることをひしひしと感じる一年でした。

さて、今回のおだびたるが皆さんの手元に届いている頃は、職員ドックの真っ最中ですね。既にドックが終了しホッとされている方もいらっしゃると思いますが、このあとにドックや健診を控え、減量の真っ最中！という方も多いのではないのでしょうか？みなさんは正月明け、体重計に乗りましたか？「正月太り」という言葉があるように、実際に年末年始は体重が増えやすい時期と言っても過言ではありません。

油断をすると簡単に増えてしまう体重ですが、これがまた落とすのが難しい…。体脂肪を1kg減らすには7000kcalを消費しなければいけません。これを運動で消費するには、なんとフルマラソン3回分に相当します。(谷口Dや総務の下村さんなら朝飯前でしょうが私達には大変難しい話ですね。)

ではその代わりに、体脂肪1kgを食事でも落とすには「1日230kcal」のご飯お茶碗軽く1杯(140g)を減らすことを30日間続ければ、1ヶ月で体重が1kg減！これならまだ現実味がありますね。1ヶ月で1kg減。ということは1年で12kg減。夢のような数字ですね。口で言うのは簡単ですが、私も食欲には勝てません…。

それでは、2018年がみなさんにとって「パラダイムシフト(劇的な変化)」の1年になりますことを期待しております。